

【特集・子育て支援】

- 2 何故「子育て支援」なのか：飯田國彦
- 3 子育て支援の理念と交流分析：本山和子
- 4 発達心理学からみた「子育て」支援のあり方：「育てる力」のエッセンス：田島信元
- 6 私の子育て支援：田中朋子
- 7 私の子育て支援：黒田和子
- 8 「TA子育て支援士養成講座」のご案内

【連載第3回 ゲシュタルト療法の紹介】

- 10 ゲシュタルト療法とは③：百武正嗣

【関東支部会員集会 記念講演(要約)】

- 12 “変わること”をめぐって
～交流分析、周辺理論を通しての自己変容～(村瀬賢先生)：佐藤寛

【東北支部設立会員集会 記念講演(要約)】

- 14 交流分析体験ワークショップ(飯田理事長)：堀内真理子
- 15 交流分析と見方革命(稲垣行一先生)：柳内英夫

【関西支部年次大会 基調講演(要約)】

- 16 元気が出る!絶対使える!
シンプルな交流分析(江花昭一先生)：宮本隆子

【ホットコーナー・関西支部】

- 17 ●私のこの一冊
『実践“受容的な”ゲシュタルト・セラピー』：清水美奈子
●雑誌から一新聞から
大津中2自殺問題：大角毅
●毎日元気
目指せ、家庭内セラピスト：東絵里亜

- 18 あなたのお好きなストロークを選んでください!

- 20 マンガコーナー・事務局から

- 21 講座・認定試験・研究会・他スケジュール

- 22 新会員のご紹介

- 23 新資格認定者・新TA地区教室のご紹介 他

- 表4 第35回年次大会(東北)

表紙テーマ：癒し・元気・ふれあい

写真ご提供者/高橋修三さん(光降り注ぐ紅葉)
山岸彩佳さん(鎌倉長谷寺・和み地藏)
匿名(宇奈月・野生のデブ猿)
匿名(スキ)

許可なく、複製、転載、あるいは、インターネットへの掲載は、お断りします。

何故「子育て支援」なのか



代表理事・理事長
飯田 國彦

「子育て支援」は極めて重要な命題です。日本人の「自己肯定感」および「幸福指数」の低さが指摘され、根本的原因が子育てにあるといわれています。

「何故、子育てでなく、子育て支援なのでしょうか」

ルソーは「エミール」において、「子どもの天性を信じ、子どもの自然な発達を妨げないようにする」ことの必要性を説き、ペスタロッチは「人間のもっている内なる諸能力を、自発的に調和的に開発する」ことを主張しました。その影響を受けた幼児教育の祖・フレーベルは「子どもの心の中にある神性をどのように伸長させるか」が大切であるとし、「さあ!子どもたちのために生きようではないか」という名言を残しました。デューイは「自己教育力」の尊重が重要であると述べています。いずれも「子育て支援」の推奨です。その後曲折はありましたが、これらを受けて、熱心に子育てや幼児教育が行われてきました。しかし、必ずしも成果が上がっているとはいえず、日本では特に「自己肯定感」の低さが続いています。

発達心理学のE.H.エリクソンは、乳児期に養育者から無条件に受容されることによって得られる「基本的信頼」を重要視しました。エリクソンと親交のあった交流分析(TA)の提唱者エリック・バーンは、幼児期の「情動が受容されること、無条件の肯定的ストロークが与えられること」の重要性と効果を特に強調しました。それらが得られない時、「存在するな」などの重大な「幼児決断」をし、その後発生する問題の根本的原因になるとしました。発達心理学とTAには子育てに必要な知見が満載されています。

「子どもの権利条約」が批准されて20年、漸く「子どもの意思を尊重した子育て支援」が法的にも注目されることになりました。「子育て支援」には、子どもの「自己肯定感」を高め、「希望」を持たせる効果があり、虐待・いじめ・自殺防止からやがては結婚、子孫の繁栄にも繋がっていきます。

この度、当協会顧問の田島信元博士(白百合女子大教授・東京外大名誉教授)のご指導と監修の下、発達心理学と交流分析のエッセンスを織り込んだ「子育て支援士養成講座」を開講する運びとなりました。時宜を得た開講を無上の喜びとするところです。

子育て支援の理念と交流分析



TA子育て支援士養成委員会委員長
本山 和子 交流分析士准教授

協会では、新しい資格講座「TA子育て支援士養成講座」を開設することとなりました。講座の内容は別稿で細述しますが、まずは「子育て支援」という用語の説明をしましょう。

「子育て支援」、耳なれない言葉だと思えます。一般的には「子育て支援」です。子育て支援は、現在、行政をはじめ民間の団体がさまざまな取り組みをしていますが、健康相談や育児の悩み相談など、「親（養育者）が子どもを育てるのを支援」することが目的です。支援をする対象は「子育てを行う人、養育者」です。一方、今回協会が行おうとしているのは「子育て支援」です。意味は、「子どもが育つのを支援する」ことです。したがって、支援する対象は「子どもそのもの」ということになります。支援する対象が親（養育者）か、子どもか、この点が大きく異なります。

もっとも講座の対象者は子どもではなく、やはり親（養育者）であり、それを支える人たちです。ではなぜ、「子育て支援」ではなく、あえて耳慣れない「子育て支援」という名称にしたのか、それは、子どもに対する姿勢の違いを強調するためです。上（養育者）からの目線ではなく、「子どもが持てる力を十分に発揮できるように、ありのままの子どもをよく観察し、自ら育つのを支援する」という子ども主体の立場を明確にしようとするものです。ほとんどの親は、我が子に愛情を注

ぎ、できる限りのさまざまな機会を与えようとするでしょう。しかしそれが子どもの状況を見逃した親側からの一方的な働きかけとなると、服従を強いる結果となり、子どもは育つ力を失います。したがって、この名称には、子どもの健全な成長と、基本的な人権を守るという確固たる意志が込められています。

近年、いじめや虐待、学級崩壊や不登校、さらにニートの増加などが社会問題となっており、自殺者は年間3万人を下らないという状況が続いています。これらの問題の根の部分に、自己肯定感「OK感情」の希薄さが考えられます。自己への基本的な信頼が、自分も他者もかけがえのない存在として尊重し合う姿勢を育て、生き生きと積極的に生きるエネルギーを生み出します。この「基本的な信頼」は、日々の養育者との交流によって（ストローク交換）醸成される部分が大きく、家庭の役割は重要です。

しかし、育児情報は氾濫し、都市化と核家族化の進展や価値観の多様化と相まって、どのように判断し、どう対応すればいいのか、養育者は情報量が少ない時代よりも、却って混乱と不安を感じているのではないのでしょうか。そのような状況の中で、交流分析の哲学である絶対的な自他信頼（人は誰でもOKである、人は考える力を持っている、自分の生き方を自分で決め、いつでも書きかえることができる）を根幹に据え、ストロークや

対話分析などを用いて原則的な対応法を提供しようとするこの「TA子育て支援士養成講座」を開設する意義は、大変大きいと考えています、この講座はまた、養育者の心の開発をも重視しています。

子育て支援は、養育者と子どもの双方の関係で行われます。ここで問題となるのは、子どもにはそれぞれ気質があり、養育者にも心のくせ（脚本）があるということです。子どもをやたら駆り立てたり、受け入れ難く感じる場合、養育者は脚本の中にいるのかもしれませんが。幼い子どもにとっては絶対的強者である養育者が、自分への気づきを深め、脚本からの脱却がなされるとき、子どもは本来持っている可能性を発揮し始めます。そのことがまた、養育者の大きな喜びとなるはずで、子育て支援は親（養育者）育ちでもあるのです。

この講座で「ありのまま」を受け入れる柔軟性を育て、養育者も子どもも共に生き生きと生きる力を得ることがこの講座のねらいです。





発達心理学からみた「子育て」支援のあり方： 「育てる力」のエッセンス

白百合女子大学教授（臨床発達心理士）

田島 信元（協会特別顧問）

協会の『TA子育て支援士』資格認定システムの根底には、“子育てに携わるものは、子ども自身のもつ「子育て力（育つ力）」をまず理解して、それを最大限に発揮させることを通して支援すること。このような「子育て力（育てる力）」を発揮することが、最適の子育てにつながる”、という考えがあります。TAの“I'm OK, you're OK”の人間観、交流技法に合うものであり、まさに、子育てというのは、TA理論と技法が大きく貢献できる分野のひとつであります。

『TA子育て支援士』養成にあたっては、当然ながら、TA理論・技法を中核としています。その上で、TAと源流を共有しながらも、その後独自の道を歩んで、子ども自身の「子育て力（育つ力）」を明らかにしてきた発達心理学の分野の知見、それに基づく支援理論の援用を通して、最適の「育てる力」の発揮のあり方を理解し、実践していこうとする人々を養成するという目的があります。そこで本稿では、「育てる力」発揮の条件について、発達心理学の観点からその要点を述べてみたいと思います。

発達心理学では、支援士が、自身の子育て実践というまでもなく、子育て実践をしている人々を支援するには、その人々と次のような条件を共有することが必要と考えています。

（1）まず、子ども自身のもつ「育つ力」の内容を理解することから始まる。

ポイントは、以下の4点に集約される。

- *子どもは“自ら瞬時に学ぶ本能”を持って生まれてくる。コンピテンスと呼ばれるその本能は、他者との交流のなかで、そこに出てきた情報を一瞬のうちに身につけてしまう能力である。そのため、他者とのコラボが成立しなければ、本能は発揮されず、学びに基づく成長・発達に停滞する。
- *それゆえ、同時に、“他者と交流する基本的体制（最適に関わる能力）”も持って生まれてくる。それだけに、もし他者の子どもへの関わりにな不適なことがあると子どもは大きなダメージを受ける。
- *子どもは、まず、学びの対象を人間関係づくり、とりわけ、頼りになる主たる養育者との関係づくりに焦点をし

ほる。この過程は、最初の1年半でみられる「向かい合い（コラボの相手さがし）」→「並び合い（選んだ相手とコラボの実践）」→「重なり合い（コラボを自分の頭の中で再現して一人でやってみる自立的実践）」という3段階を通る。それ以降も、人間は新しい生活世界に船出するたびに、まず、この段階を経ることで、活動基盤を作る。

“学ぶ本能”の発揮過程は、学習曲線と呼ばれるS字曲線を辿る。すなわち、最初は準備段階として模索を行い、時間の割には効果は低い（S字の尾）。次に、発展段階として急激な成長が見られる（S字の背）。一定のレベルに達すると、次のレベルに向けての準備段階に入るため、一次的に停滞がおこる（S字の頭）。発達はこのS字曲線が複数重なっていく過程であり、停滞期（準備期）と発展期を繰り返すが、同一分野についてみると、後になるほど短い停滞期と、長く大きな発展期を迎える。達成効果という点では、停滞期を我慢してやり続けることの大切さがわかる。

（2）発達段階の特徴と発達課題の関係を知る。

人間の発達に段階が見られる理由は、「育つ力」を発揮する新しい生活世界が拡がって、新しい人々との交流が始まるために、新しい知識・技能・態度を獲得するからである。新しい活動の場では、そこに独特の対人関係のあり方（発達課題）が求められるため、準備期には大いに苦勞するが、それだけ発展も望める。人は対人関係を更新しながら、対人的交流を続けることができれば、「育つ力」を発揮し続け、一生涯発達し続けるといえる。

（3）「育つ力」に対応する柔軟な「育てる力」の原理を理解する。

子どもの持つ大きな「育つ力」を前提とした「育てる力」=子育ての原理のポイントは以下の諸点だが、基本は「育つ力」を最大限に発揮させる社会的対話（コラボ活動）の場をつくるということである。

- *子どもの周りに興味を引く環境刺激（きっかけ刺激）を準備すること
- *子どもが働きかけたとき、環境（対象

や養育者)による応答刺激があること。かつ、それが子どもの予想を超えるプラス・アルファの情報(発展的応答)をもつとき、その部分を新知識として瞬時に取り込むことになる。そのため、まず子どもに考えさせ、働きかけさせて、教えたい内容は発展的応答に含めること。決して、子どもが働きかける前には教えない(先取り教育の禁止)。

*応答は即時応答を原則とする。遅延は子ども自身が何について予測したり、考えたりしたかを忘れてしまうので、結果的に先取り教育になってしまう。

*応答刺激は、対象物を人間が媒介するとき、発展的応答になりやすい。

*「きっかけ刺激」の提示法

子どもの興味を喚起する方法には以下のようなものがある。

a. 「馬の鼻面に人参」方式:

子どもの目の前で、興味を持たせたい対象物をチラチラと提示しながら、「これ何だろうね?」「何か面白そうね」などと誘う方式で、典型的で、一般的な方法。

b. 「目の前で楽しんでみせる」方式:

子どもの目の前で、実際に大人が対象物を扱ってみせ、楽しそうに振る舞うやり方。例えば、ピアノに興味を持たせなかったら、下手でもいいから“猫ふんじゃった”などを面白そうに弾いている姿を見せる。一般的提示法より、ずっと効果が高い。ただし、子

供が自ら「弾いてみたい!」と言うまでは、誘いをかけないこと。「○○ちゃんも弾いてごらんよ」などと誘いかけた時点で、一般的提示法になる。

c. 「教えてほしいと子どもに下駄を預ける」方式:

子どもに興味を持たせたい対象物を示しながら「これ何だろうね?お母さん分からないよ。○○ちゃん、お母さんに教えて!」というように、子どもに下駄を預けるやり方。子どもはプライドが高く、自分に託されたと分かると喜んで積極的に考える傾向がある。そのため、最も効率の高い提示法となる。

*「発展的応答」の提示法

a.まず、かならず、子どもの働きかけの成果を受容し、ほめる。

b.その後、新知識を感想形式で付け加える(できるだけ押しつけない)。

(4) 個人差に応じた、臨機応変な対応の必須性とチェック法を理解する。

子育ての原理は遵守すべきだが、実際の関わりは子どもの個人差に応じて、ほめるところを叱る方が原理に合うこともある。子育ての原理に合う関わりであったかは、以下の5点でチェックする。

保護者が子どもに働きかけたとき…

- ①子どもは生き生きと(反応)していたか?
- ②子どもは教えられたことだけでなく、自分の考えや意見を提起していたか?
- ③保護者は子どもの頭を柔らかくするような働きかけをしたか(子どもにま

ず考えさせたか)?

④子どもから学ぶことがあったか?

⑤子どもとかかわって保護者自身が楽しかったか?

以上の5点のうち、①②のどちらかにあてはまれば、子育ての原理に適った関わりであったといえる。また、⑤にあてはまれば、この点だけでOKといえる。

(5) その他

以上の4点のほか、以下のような点に留意する必要がある。

*失敗したときの即時の対応の重要性を知る。遅れてもいつからでも発達は取り戻せるが、必ず、短時間でもいいので、人間関係について「向かい合い」から始めるなど、一からやり直す必要がある!(やり直した方が早い!)

*「子育て力」とは支援する本人自身の「育つ力」の発揮にもつながり、大きな成長が見込めることを自覚する。

*人は、結局、他者とのつながりの中で、対話・コラボを通して、発達し続けていく存在であるという信念を持ち続けること。

なお、それぞれの項目に関しての具体的な対処法やTA理論・技法との関連については『子育て支援士養成テキスト(仮題:近刊)』を参照されたい。(了)



私の子育て支援

交流分析士准教授

田中 朋子(四国支部)

(保健師・プラクティスト・コンサルティング・カウンセラー・ヨーガ、気功など健康法指導者)

交流分析を学び始めたころは、他画像と自画像のギャップにもがいていました。しっかりしていると見られれば、その期待に応えるのが当然であり、甘えたい気持ちや泣きごとを言うこともなく仕事をこなしていました。「他人を喜ばせろ」「強くあれ」のドライバーに駆り立てられている状態です。そんな中、どうして私を理解してくれないのか、と哀しく、疎外感(ラケット感情)を感じつつも「自分の世話は自分でしなければ…」と自分の世界に引きこもってしまいます。そして現実よりもファンタジーの世界に入ってしまうのです。

「交流分析による人格適応論」に出会って、ずいぶん自己理解が進みました。個人の人格適応タイプは①生まれつきのもの、②人生の最初の6年間に、両親や周りの人々とのように関わってきたか、この二つの要因が結合されたものだと書かれています。親の養育スタイル①不十分であること、②やりすぎること、③一貫性がないこと、この3通りに子どもは「生き延びるための適応タイプ」創造的夢想家、魅力的操作者、才気ある懷疑者として反応します。生き延びるための適応タイプは、家庭と外界において自分の最も基本的な欲求を満たすための方法であり、人生の最初の18ヵ月以内に発達し始める、とあります。また行動上の適応タイプは、親が適切な行動を強要したり、行動に関して期待するのに対して応えようとする反応で、18ヵ月から6歳の間に発達します。④管理のし

すぎ、⑤達成の強調、⑥他者を喜ばせる、親のこの3つの養育スタイルには、子どもはおどけた反抗者、責任ある仕事中毒者、熱狂的過剰反応者という「行動上の適応タイプ」として反応します。詳細は、本を読んでいただきたいのですが、基本的な信頼が壊れたと感じたときに、子どもが自分の力で自分の世話ができる最良の方法としてその子なりに身につけた反応です。

自分のワンパターンの反応は禁止令やドライバー行動、ストローク経済、ラケットシステムなどが関与しています。まず、知識を得て、語り合える仲間やカウンセラーなどに理解してもらおうと、自分自身を等身大で見ることができ始めます。それから自発性や主体性をもって、代替案を考え、今までと違う対応を試してみます。リスクを冒しながら、より適切な行動をとることができるようになります。

交流分析を学んで10年くらいして、第1子のお母さんを対象に「いきいき子育て、親育て」という講座を開催しました。理論に加え、0歳児をもつお母さんは心身共に疲れていますので、子どもとの遊びを通じて身体を、心をほぐそうと「親子でヨーガ」を取り入れました。狭いベビーベッドの中だけでなく、1日に2~3回は畳(床)の上に寝かそうね。広い畳の上で、赤ちゃんは自分の身体をゴロゴロさせながら身体感覚や運動神経を高めて行きます。おもちゃがなくても、自分の手や足でよく遊んでいます。

お母さんも「いないいないバア」や「にらめっこ」「手遊び唄」など、また、「飛行機」や「シーソー遊び」などお互いの身体を使った遊びをしっかりともらいます。こうした中で基本的な信頼が育まれますし、感情も豊かになってきます。赤ちゃんの大きな笑い声が部屋中に響きます。そして、同じくらいの子どもにとっても興味関心を持ち、表情にも活気が出てきます。じっと見て真似をしたり、年下の子には手を貸したり、他者を思いやることも学んでいきます。兄弟姉妹の少ない現代は意図的にそうした時間をつくることも必要でしょう。

お母さん達も近況を話し合ったり、アドバイスをもらったり、情報交換の場にしたりしながら連帯感が生まれ、また、なかなかよくやっているじゃないか、と自分へのストロークも出てきます。

子育ては連鎖して行きます。また、乳幼児期の決断が、その後の人生に引き継がれていきます。子どもが自ら育つ「子育て」の力を十分発揮できるよう、親(養育者)が関わるための支援が必要です。それぞれの力をディスカウントすることなくサポートしていきたいものです。





私の子育ち支援

交流分析士1級
黒田 和子(関西支部)

自宅で学習塾を始めて15年になります。TAを学ぶ以前は生徒と関わる中で、腹が立ったり、むなしくなったり…一生懸命しているのに何故だろう?と思うことがしばしばありました。

5年前からTAを学び始め、子ども達とゲームをしていたのだと気付きました。TAを学んだことで自分が少しずつ変わっていき、生徒たちとの関係がとても良くなってきたのを実感しています。その体験から「お母さんが変われば子どもは変わる」という思いに至り3年前から母親教室を月1回開催しています。「子育て講座マニュアル」(関西支部子育てサークル作)を参考にしながらイメージ コーチングも取り入れた内容になっています。テーマは「気づくこと・見方を変える・今を楽しく」です。またイベントとして、お菓子の家づくり・パステルアート・コラージュ作り…親子で楽しいストローク交換をしています。

参加されたお母さん方は、最初は子どもの良いところ、自分の良いところを10個書き出すのも大変でしたが、2~3年目になるとスラスラと20個位書けるようになり、また自分の事はあまり話さなかった人も自分から話題を出してくれるようになりました。皆さんから「今までを振り返ることができるようになった。」「自分自身の事について色々な気づきがあった。」「他の人の話が聴ける様になり自分のことも話せるようになった。」「月1回自分をリセットできる時間ができた。」「同じテーマを何回聴いても気づきが得

られる。』…等々とても喜んでもらっています。今後は、さらに内容を充実させていきたいと思っています。

以下、母親教室に参加されている二人の方の事例を紹介します。

「双子のママ」

参加当初は 子育てが思うようにいかないというイライラする。忙しくしている時に限って色々言ってくるので疲れる。性格の違う二人を比べてしまう。と話していました。教室に参加して、ストロークの大切さに気づき子どもの話を聞くときは、仕事の手を止めて子どもの目を見て話を聞くように心がけていたら、子どもの反応が変わってきたそうです。ある時子どもが側に来て「お母さん大好き」と言ってくれたと喜んでおられました。今まで怒ってばかりだったのでその時はとても嬉しくなり、それからますます抱っこ、ハグなどスキンシップを多く取り、言葉も意識して肯定語に変えていきました。今年の母の日、子ども達からこずかいで買った花とお菓子をプレゼントされて、「いっぱい愛をもらっている」と感じたそうです。また、繰り返し受講するにつれ自分自身のあり方にも大きな気づきがあったそうです。それは「お人よしをやめよう」と思えたことです。

他人を優先して嫌なことも断れなかったのが、「自分が大切」と思えるようになってから人との距離の取り方が良くなり、少しずつですが上手に断ることもできて気持ちが楽になってきたそうです。

「男児二人のママ」

参加当初、長男の中学受験の事で悩み、このままではいけないと危機感を感じていました。母親教室に参加するようになり子どもに対する見方が少しずつ変わっていき、親子のストローク交換がうまく出来るようになると、子どもが安定してきて成績が上がり塾のクラスがどんどん上がって行きました。しかし子どもの意志を尊重して子どもが望む中学に決めたそうです。もしTAの勉強をしていなければ、お尻を叩いてでも偏差値の高い中学に行かせようとしていたと思うとゾッとすると話してくれました。また夫との会話で、話が伝わっていない事が多くある事に気づき、交差しないようにAを使って話すように心がけたそうです。結果は3ヵ月位で劇的な変化を遂げました。

今では何であんなに怒って腹が立っていたのか思い出せないと笑っておられます。彼女はTAを勉強して将来保母さんの仕事に復帰した時、若いお母さん達にTAを伝えていきたいと抱負を語ってくれました。

若いお母さん達にTA理論を伝えることで変わっていく様を目の当たりにしています。気づきもたらす変化の大きさに驚きや喜びを感じ、人のエネルギーの偉大さを実感しています。母親教室を通して私自身も沢山の学びがあります。今後インストラクターの資格を取り多くの人に伝えていきたいと思っています。

田島信元先生監修

「TA子育て支援士養成講座」のご案内

TA 子育て支援士養成委員会

「TA子育て支援士養成講座」は、協会の新しい資格講座です。生涯発達心理学がご専門の白百合女子大学教授で当協会の特別顧問の田島信元先生監修の講座です。交流分析の哲学（人は誰でもOKである、人は誰でも考える力を持っている、人は自分の生き方を決め、そしてその決定を変えることができる）を基本理念とし、発達段階ごとの課題を理解したうえで、交流分析の理論と技法を子育て支援に活用していく専門家を養成します。交流分析と発達心理学を統合させた協会独自の講座で、また、事例を用いた演習中心の内容は、実践力と応用力に富んでいます。

子育て支援とは、前稿でも述べたように、子どもが育つのを支援することです。子どものありのままを認め、その子が本来持っている可能性を最大限に発揮できるように支援すること、これが子育て支援です。そして子育て支援をする人は、子育て支援者ということになります。養育者（親）や子育てに関わる人たちがこれに相当します。今回協会が新たに発足する新資格「TA子育て支援士」も同じように、養育者や子育てに関わる人たちが対象です。では、TA子育て支援士は、子育て支援者とどう違うのでしょうか。

TA子育て支援士は、まず、交流分析を指導する資格を有し、交流分析の哲学と理論および技法を子育て支援に活用できる力を持っていること、そして、子どもの発達心理を理解し、交流分析と発達心理を活用して子ども自身および養育者を支援することができる人を言います。また、この講座では子育て支援士に、ファシリテーション力もつけていただきます。いろいろな角度から物を見る力、相手の立場に立って柔軟に効果的に支援ができる力を身につけていただくことが目的です。これは、養育者が自分自身と子どもをありのままに認め、それぞれにふさわしい子育て支援の在り方を見つけ出す力を育みます。養育者の心が軽くなり、肩の力を抜いて子育て支援を楽しむゆとりを持てるようになること、これもこの講座のねらいです。

1. 講座の特長

- 1) この講座では、交流分析と発達心理に基づいた基本的な考え方と対応法を提示します。このことにより、巷間に溢れる育児情報に惑わされることなく、各自が自分の判断基準と子育て支援の方針を持てるようになります。
- 2) 演習中心に講座を組み立てることで、応用力と実践力を養成します。同時に養育者の気づきを深め、養育者自身の自律を促進します。養育者の自律は心の安定と安心を生み、子どもの自律に結びつきます。

3) この講座では、青年期前期までを対象としています。一般には乳幼児期が中心で、せいぜい10歳ぐらいまでですが、心身のバランスが難しくなる思春期以降も取り扱うことで、応用力を高めます。

4) ファシリテーション演習に多くの時間を割き、ファシリテーション力の習得を図ります。核家族化と価値観の多様化が進んでいる現在、地域コミュニティの再構築が求められています。子育て支援士として地域の集会（子育てサークルやPTAなど）でコミュニケーションが促進され、学びが深まるような場づくりに貢献していただければというねらいです。

2. 受講対象者

- ①子育て中の養育者（親・祖父母、その他直接子育てに関わっている方）
- ②養育者を支援する立場の方（保育士、教育関係者、医療従事者、コミュニティリーダー等）
- ③その他、子育てに関心のある方、子育てをしっかりと勉強したい方

※ただし、交流分析士2級以上の資格取得者

3. 資格制度について

1) 権利関係

養成講座を修了し、資格認定試験に合格した受講者は、当協会の資格に応じて下記の資格を取得することができ、また、それに応じた活動を行うことができます。

①交流分析士インストラクター

- 「TA子育て支援士」資格取得
- TA子育て支援講座の開設
- 地域集会（子育てサークル、PTA等）でのファシリテーション

②交流分析士1級・2級

- 「TA子育て支援士補」の資格取得

(交流分析士インストラクター資格を取得した際は、「TA子育て支援士」の資格に昇格します)

●地域集会(子育てサークル、PTA等)でのファシリテーション

2) 資格更新制度

①資格有効期限5年

②資格更新条件

●年1回開催される資格更新研修の受講

●発達心理、交流分析関連推薦図書読書

4. 講座受講料・試験料・認定登録料

1) 受講料: 25,000円(消費税、テキスト代込み)

6. 講座内容

1日目 11月10日 10:30~17:30	2日目 11月11日 9:30~16:30
(オリエンテーション、子育て支援講座の目標)	(心身の発達に沿った関わり方)
(10:30~12:30) 1. オリエンテーション ●講座の目的 ●アイスブレイキング ●子育て支援とは何か ●子育て支援とTA	(9:30~11:30) 3. 演習① 乳幼児期の成長 ●ワークショップ「乳幼児期の成長」
(13:30~17:30) 2. 生育歴・親との関わり分析 ●TA理論による関わり方分析 ●人の成長と心の発達	(12:30~16:30) 4. 演習②「児童期の成長」 ●ワークショップ「子ども&親の自己効力感」 5. 演習③「思春期の成長」 ●ワークショップ「依存と自立」 6. 次回の予告と実践課題

(ファシリテーション演習を中心に)

3日目 12月8日 9:30~17:30	4日目 12月9日 9:30~16:30
実践課題の振り返り、ファシリテーションスキル	ファシリテーション演習と全体のまとめ
(10:30~12:30) 7. 実践課題の振り返り 8. ファシリテーションとは 9. ファシリテーションの基本スキル ●PDCAのサイクル ●プロセススキル	(9:30~11:30) 11. 演習⑤「ファシリテーション②」 ●ワークショップ「児童期の成長と支援」
(13:30~17:30) 10. 演習④「ファシリテーション①」 ●ワークショップ「乳幼児期の成長と支援」	(12:30~16:30) 12. 演習⑥「ファシリテーション③」 ●ワークショップ「思春期の成長と支援」 13. 「子育て支援」実践に向けて 14. 全体振り返り

●副読本代別 価格1,800円(関西支部子育てサークル作成テキスト2冊)

2) 認定試験料: 10,500円(消費税込み)

3) 合格後の資格登録料: 16,800円(消費税込み)

5. 日程

1) 講座日程(全4日間)

●平成24年11月10日・11日(土日)

12月8日・9日(土日)

2) 資格認定試験

●平成25年1月20日(日)